

## 第6回 交通対策特別委員会記録

- 1 日 時 平成28年9月27日(火) 午後4時37分 開会
- 2 場 所 議会委員会室
- 3 出席委員 6名
- |         |         |     |         |
|---------|---------|-----|---------|
| 委 員 長   | 宮 澤 一 照 | 委 員 | 植 木 茂   |
| 副 委 員 長 | 阿 部 幸 夫 | 〃   | 霜 鳥 榮 之 |
| 委 員     | 村 越 洋 一 | 〃   | 高 田 保 則 |
- 4 欠席委員 0名
- 5 欠 員 0名
- 6 職務出席者 1名
- 議 長 関 根 正 明
- 7 説 明 員 0名
- 8 事務局員 3名
- |         |         |     |         |
|---------|---------|-----|---------|
| 局 長     | 関 原 敏 明 | 主 事 | 齊 木 直 樹 |
| 庶 務 係 長 | 池 田 清 人 |     |         |
- 9 件 名

- 1) J R 東日本等への要望活動の報告について

---

○委員長（宮澤一照） ただいまから交通対策特別委員会を開会いたします。

- 1) J R 東日本等への要望活動の報告について

○委員長（宮澤一照） ただ今から交通対策特別委員会を開会します。協議に入る前に、これまでの経緯について簡単に説明させていただきます。昨年11月から、上越市、糸魚川市さんと共同で、鉄道各社へ要望していこうということで、執行部の見解や経過などを確認し、また委員の皆さんから御意見などをいただきながら、妙高市分の要望事項をまとめさせていただきました。

その後、上越三市議会として要望事項を整理しまして、来年のダイヤ改正に反映させるため、9月9日にJ R 東日本とえちごトキめき鉄道に要望を行ったところです。

本日の委員会は、まず先般の要望活動についての報告をさせていただき、また今後の委員会の取り組みについて協議いただきたいと思います、開催させていただきましたので、よろしくお願いいたします。

時間もありませんので、早速、1) J R 東日本等への要望活動の報告について、を議題といたします。

○委員長（宮澤一照） 資料が配付されていますので、この説明を事務局からお願いします。池田係長。

○庶務係長（池田清人） それでは、本日配付しました資料に沿って、要望活動の報告を簡単にさせていただきます。

まず、資料1ページをごらんください。要望日時、要望先は記載のとおりで、9月9日にJ R 東日本本社と、えちごトキめき鉄道本社へそれぞれ伺いました。2の要望活動出席者については、上越市、糸魚川市、妙高市の議会の議長さんと、各市議会の交通対策関係特別委員会の委員長さんで伺いました。3の要望内容及び回答です。こち

らは少しボリュームありますので、時間の関係もありますので回答部分のところのみ朗読させていただきますので、よろしくお願ひします。回答部分は少し太字の矢印になっているところになります。

まず1番目の(1)です。新幹線は、首都圏と遠方各都市の速達性確保と途中駅の利便性の向上、利用者数などのバランスを考慮して停車駅、便数などを設定している。大宮・長野間の停車駅が少ないタイプは4往復設定されていまして、今後も利用者の状況を踏まえて停車駅を考えていくため御理解をいただきたい、とのことです。

次に、1の(2)です。首都圏と富山県、石川県エリアの速達性確保の使命から、かがやきの停車駅の増は今のところ考えていない、との回答でした。

その下です。「あさま」は「かがやき」や「はくたか」が停車しない、首都圏から長野までの利用者の利便性を確保するための運行体系としているが、長野駅を境に利用客に大きな段差がある状況であり、長野までは利用者が多く、長野から先は利用者が少ないため、「あさま」の上越妙高駅までの延伸は考えていない。あさま629号を24時まで運転することはできるが、上越妙高駅から車両基地へ回送する必要があり、回送時間を含めると24時を超えるため、延伸は困難である。新幹線の運行は利用状況が大前提であり、今後も利用しやすい体系を検討していく、とのことです。

2ページをごらんください。一番上です。(3)ですが、これは1-2のかがやきの方の回答と一緒にということで省略させていただきます。

大きな2番です。上越地方から新潟駅までの利便性の向上ということですが、(1)です。新潟駅と上越妙高駅、新井駅間は特急5本、快速2本、糸魚川駅では快速1本を設定している。列車の設定は利用者の利用状況を考慮して設定している。今の利用状況では増発は困難である。特急しらゆきの運転に併せて、「しらゆきダブル切符」を発売している。これは有効期間を1ヶ月に設定し使い勝手をよくしたもので、多くの利用をいただいております、引き続き「しらゆきダブル切符」での対応をお願いしたい。料金変更の計画は今のところない、ということです。

2の(2)です。特急「しらゆき」は旧特急「北越」と同数を設定し、「旧くびき野」の代替としている。列車の運行については、運転のための設備や他列車との接続を総合的に勘案している。今の利用状況から考えると、運転区間の延伸の予定はない。直江津駅から妙高高原駅間は、えちごトキめき鉄道の営業エリアであり、JR単独での延伸は困難である、とのことです。

(3)です。現在の利用状況から、今のところ運転時刻を変更する予定はない。直江津駅、糸魚川駅はえちごトキめき鉄道の営業エリアでありJR単独での時刻変更は困難である。利用状況を注視し、勘案しながら利用しやすいダイヤ設定としていくため御理解いただきたい、との回答でした。

続いて、3ページ目をごらんください。3のビジネスえきねっとの関係です。ビジネスえきねっとは、サポートセンターが全国一括管理している。センターの営業時間は、午前8時30分から午後8時までとなっている。えちごトキめき鉄道以外にも多くの企業が利用している。全ての企業が営業時間内において利用いただいているもので、どの企業も例外なく利用いただいている。営業時間の延長は厳しい状況にあり御理解いただきたい。また、早い時間帯の切符購入について、当日は8時30分から営業となるが、JR切符は1ヶ月前の10時から購入できるため、事前に営業時間内にて購入をお願いしたい。しらゆきダブル切符も有効期間が1ヵ月あるため御利用いただきたい、とのことです。

その他として、要望項目以外で当日にでた内容について、糸魚川市、妙高市からいくつか話がでております。そちらについては記載のとおりです。以上がJRの関係の要望の内容と回答ということです。

続いて、えちごトキめき鉄道の関係です。3ページ下段です。1の(1)安全で安定した運行の関係です。豪雪時など必要に応じて体制を組んでいる。今冬については少雪でもあり雪による運休はなかったが、常に万全の体制

で臨む、ということです。

続いて4ページをごらんください。(2) 運休する場合の関係です。今年は雨による運休が発生しており、自然災害に万全を期す。運休の場合、短時間や1日間の運休では全てに対応する代替対応は難しい。長期間運休の場合も、全ての時間帯は難しいが朝夕にバスでの対応をしたい。また、運休情報は確実に早く伝達したい。来春には、直江津に統合した指令センターが稼働することから、より迅速な情報伝達が可能となる、ということです。

(3) です。朝夕は混雑していると認識しているが、今のところ乗車率100%には至っていない。将来的には新駅の話もあり乗客の流れを見きわめながら混雑緩和に取り組みたい、ということです。

大きな2番、関山駅の関係です。妙高地区ではイルミネーションが好評であると聞いている。雪月花とのコラボなど新たな観光コースの設定も考えられるが、今のところ乗降客数が少ない状況にあり現状では厳しいため、御理解いただきたい、との回答でした。

3の特急しらゆきの延伸の関係です。特急しらゆきの運行はJRが行っており、難しい課題である。雪月花を使いながら妙高高原の観光客をふやしていきたいと考えており、それと併せながらJRに要望していきたい、ということです。

次に5ページ目をごらんください。5ページ目の相互乗り入れの関係です。大きな4番です。開業前に新潟県と長野県で協議してきた経緯があり、当時は長野県の反対が強かった。直江津までの乗り入れは運転手が余分に必要となり運転手のローテーション効率が悪い状況となる。長野県側ではコスト増となる運行体制は考えられない。ただ、開業前と状況も変化してきているため、交渉の余地はありうと思う。現状は厳しいが他の調整事項も含めて考えたい、ということでした。

5ページ目の下の方は当日、要望以外にでた各市での当日の要望事項を記載しています。

以上、簡単ですが報告をおわらせていただきます。

○委員長（宮澤一照） ありがとうございます。今ほどの説明を踏まえて皆さんに御意見を伺いたいと思います。

植木委員。

○植木委員（植木 茂） ちょっとお伺いしますが、今の説明だと今までとあまり変わらない報告、回答と認識しているんですが、今回、JR東日本とえちごトキめき鉄道に、議長、特別委員会の委員長さんで行ったということですが、JRの対応はどのくらいの地位の方が対応されたんですか。

○委員長（宮澤一照） JR東日本は課長です。課長対応です。あまり変わらないというよりもむしろ非常に決断もなくただただ、これは私の委員長としての個人的な意見ですけども、利用状況というものを非常に言うんですね。全てが費用対効果がないとだめだと。要は铁路の重要性というものに対して我々が訴えている。特に糸魚川の議長が話したのは、要は時間を変えてほしい、それだけを言っているにも関わらず、そういうのは無理だと、利用状況を考えてからやりたいと。我々は議長を含めて忙しい中、3市の議長そして我々とみんなで東京まで行きました。東京に行ってももの30分から40分、その陳情、初めて我々は要望をまとめるにあたって何時間もまとめていきました。しかしながら行った段階というのは、これが現状だということを私は初めて痛切に痛感したのは私自身の感想であります。課長の裁量、上からのトップダウンもあるわけでもないし、ただただそこで現状を読み上げてお話ししたというような状況でございます。植木委員。

○植木委員（植木 茂） 今、委員長から話しがりましたが、課長対応ではそれ以上先の話は出てこないと思います。一応、この中にも出てますけども「あさま」に関しても上越妙高駅までの延伸ということなんですが、今までの状態で行くと多分、今の利用状況という話しになるとなかなかできないと思いますし、やはりこういうのは政治力といますか、上の地元国会議員をはじめ新潟県知事等も含めてですね、こういうものを要望していかないとかな

か前に進まないのではないかと思います。その辺についての話し合いというのは、3市のなかで話しは出たんでしようか。

○委員長（宮澤一照） 3市の中では、その件についての話しはできていません。歩きながらの話ではありましたが、正式な場で話をしたということはありません。ただ、ようは行政のトップが行って、そして我々の要望を通していかなければいけない。今回は委員会、議会の方でこのことについてしっかりと議論して、それを持っていたという経緯でございますが、要は我々だけで行くのではなくて、そもそもは上越市、糸魚川市と3本の矢で行けば強いのではないかということでしたが、何らそういうことはなかったということで、私は非常に残念、無念です。しかしながら、これを契機にやはり言うことはしっかり言わなくてはならないということは痛感いたしました。地元の国会議員、今度なられる知事の方と一緒にやって要望事項をやらなければ、鉄道の重要性、どんどんどんどん衰退していくということが感じたところです。植木委員。

○植木委員（植木 茂） 本当に一丸となってやらないとなかなか前に進まない。委員長のほうからもお話しがありました。地域によってここの要望内容も地域地域で要望内容も違うところもあると思うんです。特に我々のところは北しなの線とトキ鉄がつながって、直江津までということになると利便性も高くなってくると思うんですが、このなかの説明の中で開業前と状況が変化してきている、ということが書いてありますけど、もう少し詳しくどのようなことが話でできてきているか分かりませんが、ちょっとお聞かせください。

○委員長（宮澤一照） この件に関しては、えちごトキめき鉄道への要望に対する話しだと思っておりますが、これに対して乗り入れについてだと思えますよ。この件は長野県が非常に反対していたということを知っております。しかしながら、今回の1年経ったということで新たにそれをもう一回交渉する立場として、継続して行ってそれでスムーズな形で直結できるような形をとるように要望して、話し合いをしていくということは、直江津の本社で嶋津社長のほうから回答をいただきました。議長。

○関根議長（関根正明） 今の件ですけど、しなの鉄道の方がだいぶ軟化してきたという話しです。それが交渉の余地があるという形になってきたみたいですので、これから県知事候補の森さんもしていましたので、もし森さんが知事になれば動いてくれるのではないかという気がします。

○委員長（宮澤一照） 高田委員。

○高田委員（高田保則） 前に、3市合同で委員会をやったときにいろいろ申し上げたんです。結果、上越市ともまとめましたんですけども、たった3行か4行の中のとりのまとめとなった。私は3市合同で行くのもいいんですけども同じ3市でも全然条件が違うわけです。環境が。前にも申し上げましたけども私どもは独自にトキ鉄とやるべきだと。当面はトキ鉄と利便性の向上ということでやるのは、私どもの交通対策特別委員会だと思いますし、その証拠に新井駅のエレベーター化、妙高高原駅のエレベーター化はトキ鉄がもつんでなくて、費用は行政がもつ、妙高市がもつというちょっと考えられないようなトキ鉄のわがままがあるので、しかも今回の妙高高原駅周辺整備基本構想の中でも、だめだだめだというのが全部ある。トキ鉄が。あんなの我々は許しておいてはいけないと思う。きょう、あしたやれというわけではないんですよ、基本構想ですから。何年か先にはこういうことをやるべきだということを提案する中で、それもだめだ、これもだめだというのは何のための地方鉄道か分からない。ですからこれは否定はしませんが、これからの交通対策特別委員会は徹底的にトキ鉄との話し合いで私はいくべきだと。そうすれば今の直通、これは開業前からの希望ですよ、お互いのね。しなの鉄道は直江津まで、トキ鉄は長野までという、しいては軽井沢までというは。そんなことでごく身近なことで交通対策はやるべきだと、JRはおそらく噂ですが720億円という経過というのはJRは絶対に胸を開きませんよ。今度の新知事になる人はわかりませんが、現状ではなかなか難しいと思うし、もしJRとやるとすれば三市の長も新潟県の長も同席したなかでやることにしないと、

私は100%だめだと考えます。そんなことでぜひ交通対策特別委員会はトキ鉄にある程度特化した中の運動を考えていく方が現実味があるのではないかと思います。

○委員長（宮澤一照） 今ほど、高田委員から今後はトキ鉄に特化してそちらを中心にして議論を深めて要望等をまとめて、今後の特別委員会のあり方を検討していく必要があるということをおっしゃられましたけども、皆さんはいかがお考えでしょう。霜鳥委員。

○霜鳥委員（霜鳥榮之） 2段構えだと思えます。JR対応については、確かに3市の特別委員会だけで対応してもこれは難しい。そこから国会議員を動かすというのがありますけど、やはり県を引っ張り込むというのがまず必要だろうと思います。そういうことをやりながら協力していくということだと思います。高田委員が言われたようにローカル線対応というのは直接の我々の足でもあったりするものなので、ここが進展していくことによってJRの見方もどうなるか、ということもありうることだと思いますし、我々とはとにかくはねうまラインそのものをどうするか、ということでやっていながらタイアップということで3市のお互いに協力してやっていくことはやっていく。JRとトキ鉄と別にするというか、対応の仕方は線引きしておいた方がいいのかなと、JRへ行って頭にきました、それでもってトキ鉄の方へというのどうかと。そういうことでより具体的にというのは大いにやっていくべきだと思います。

○委員長（宮澤一照） 霜鳥委員がおっしゃられたように、JRと3市と議論することは大事だということで、一番当初は始めたのは事実でありますので、その辺は御理解いただいて、結果今回そんなに意義があったかはどうか分かりませんが、ただ行くことは意義があったと思います。3市で行くということは今までなかったことでし、連帯性というのも重要だと思いますし、お互い3市が何に困っているのかという話しも聞きましたので、それはそれとして結果があったというふうに理解していただきたいと思います。その中に置いて、今後、トキめき鉄道との一番身近になっている鉄道の方向性というものに対して、今後特化してやっていかなければならないと思いますが、村越委員何かございますか。

○村越委員（村越洋一） まず、ごあいさつさせていただきたいと思えます。村越です。今委員会より参加させていただきましてのよろしくお願いたします。資料をたくさんいただきまして一夜漬けのような形で勉強させていただきましたが、これまで平成25年から歴史のある委員会の中で、いろんな様々な要望が出てきたわけで、その都度回答あるけどもなかなか進展していないんだなという状況が資料からよく分かりました。今後ということですが、今ほど話がありましたし、この報告書の中にもあるんですけども、サイクルトレインであるとか雪月花などこういった新しい取り組みの今後の動きも必要になるのではないかと、率直に思いました。それと3市の温度差、この辺はどのように捉えておられますか。今3市で合同でということですけども。

○委員長（宮澤一照） 3市の温度差、特に上越市との温度差では、上越市は新幹線、JRで、トキめき鉄道よりは新幹線の方の、上越妙高駅にいかにかがやきを停めるか、ここに出ている要望に特化していますし、先般、糸魚川市に関しては新潟市に行く電車の乗り入れの時間帯が非常にスムーズでないということがメインになっていると同時に、糸魚川さんにおいては隣の富山県、そして長野県白馬、そちらの方も頭にある。その辺との温度差はだいぶあると思います。雪月花に関しては繋がっているという部分があると思いますが、上越市は雪月花に対しては強く何か要望していることもない。ただし、妙高市に関しては新井にとまらない。地元の重要なところにとまらない。嶋津社長は上越市にとまって雁木通りを見て回るとか、資料にも書いてありますけど、我々妙高市のいい部分というものを取り入れようという考えがないので、その辺を考えていく、私自身の感覚としてそう思いました。村越委員。

○村越委員（村越洋一） 知事選のお話しもあったように、やはり上越妙高駅前の開発も含まれてくると思えますし、また関山駅の対応というのも非常に感じた。各駅、駅周辺で活動している方との関係とか、いろんな鉄道とそれか

ら周辺地域との連携というのもこれから重要になってくるのではないかと思います。当委員会と少し離れるかも知れませんが、観光連携とかまちづくり連携というところをこれから取り入れる形というのいかがかなと思います。

○委員長（宮澤一照） 上越妙高駅に関して、周辺に関しては上越市の管轄であるので、これは特別委員会としての検討ができるかはあとで精査していただきたいと思います。ただ、関山駅、その辺の観光に関しては、議論に含まれてくると思いますが、あくまでも特別委員会の趣旨としてはトキめき鉄道のあり方、要するに鉄道の重要性というものに対して、それからE T Cですね、その辺の委員会ということで認識いただければと思います。

副委員長何かありますか。 阿部副委員長。

○阿部委員（阿部幸夫） 私も1年間、経験しまして皆さんの意見の中で一番感じていることは、上越タイムスをいろいろ見ている中でトキめき鉄道に関してのいろいろな情報が割と載っているんですけど、妙高市、関山、妙高高原についてはなかなか記事としても訴えるものがない。そして市民からは見えていない、何をどうしたいのか。すごく感じていて、最近、中郷あたりでは市民参加でスイッチバックの本当に、どうなのかは別にして、やはり何か自分たちのものを出してきているというところに、私はもう少し、この交通対策の中で市民と行政と、私たちが一体となって皆さんに見える化を少しやらなくてはいけないのではないかなと思っています。それは具体的に何を言うかということ、上越妙高駅が新幹線できてイルミネーションでバスを走らせているわけですよね。お客を。結果的にはバスを使っているという、トキめき鉄道でなぜ応用ができないのか、日帰りが多いといっているながら高齢者の皆さんも本当にトキめきで日帰りするのかどうか、含めてもう少しそういった意味合いを考えてみたらどうかと思いますし、先ほども長野との関係で少し変わってきたというのも、一つはインバウンドがすごく妙高は冬期間は数年間続いていて、そこの12月から3月まではすごく多い部分というのは、長野の入りと、上越妙高での入りが少しあるんだろうと思うんですね。そこにもバス走らせているわけですから。もう少しそういった意味で私どもの整理の仕方として、トキめき鉄道に対しても少し訴えるものがあるのかどうか、見える化をしていってはどうかと私感じているところです。前向きな意見を出していきたいと思います。御協力いただければと思います。

○委員長（宮澤一照） 高田委員。

○高田委員（高田保則） 今、村越委員初めてですけど、さっきサイクルトレイン、イベント列車これは交通対策で提案した事項なんです。開通前に。今ようやく1年経ってやっているということで、私らが発案して、提案したものでということで一つお願いしたいと思いますし、もう一つ運休のものも出ておりますけども、これ今頃こんな回答なんていうのはおかしい。新井、妙高高原間の運休が異常に問題だということで私も頭にきながらやりましたけども、今さらこんな対応しますというのもおかしいんであって、これも交通対策特別委員会としては厳に申し入れをしていかなければならないと思います。強硬な意見ばかり申し上げていますがそれでもやはり、さっき霜鳥委員も言っていましたけども、地方鉄道は私らの大事な鉄道でありますし、鉄路が消えて地名がなくなった場所が全国にいくつもあるわけです。ぜひ私も鉄路は絶対守らなくてはいけないということで私ら頑張っていきたいと思いますが、そういうことでよろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（宮澤一照） 鉄路の重要性ということで、この委員会が立ち上がったということがそもそものスタートラインだと思います。その中で今回、皆さん方の意見でトキめき鉄道、一番身近な鉄道、そして今の妙高高原駅、新井駅のエレベーターまで我が市がもたなくてはいけないという議論まで出てきているということもあるし、雪月花にしても、そういう部分があると思います。我々の今までの意見をまとめてきたんですけども、我々以外にも企画と妙高市の執行部である企画の方で交渉している部分もあると思いますし、当然、トキめき鉄道にはこちらから役員として副市長がいかれている。この方々がある程度の意見を取締役会で出さなかつたらいい方向というのも生まれにくい。我々議会だけが委員会だけが、諸々こういう話しをしたところで無理だと思います。我々は我々で今回

言ってきたことを私は、今後、執行部、副市長、それから企画政策課の方々と近々に管外調査が終わってその間に一回、議論をさせていただきたいと、まとめてこういうもので行ってきたということを、そういう委員会を1回開きたいと思いますので、その辺は皆さんいかがでしょう。それをやらさせていただきたいと思います。なぜなら、我々、この前企画から聞いていた、例えばイルミネーションがアパがあって300万投資して、ということもあると聞いていたんですけど、イルミネーションやることで非常に、切符に関しては前向きな意見だということは先般、私は松岡課長から聞いているんです。ただどもども回答には御理解ください、だめだと。だいぶ変わってきている部分、これは今後委員会として、そういうことを意思疎通をもう一度改めてやらなくてはいけないということで、ぜひ委員会をもう一度開かせていただいて、それが終わったらこの12月の今後の方向性として、12月の定例議会のとときには中間報告をさせていただきたい。そういう形でやりたいと思いますが、いかがでしょう。高田委員。

○高田委員（高田保則） ぜひそれはやっていただきたいと思います。私らは、副市長それから松岡課長と相対的な意見交換するんですけど、中身は同じなんだからざっくばらんに同一方向性で議会も行政も足並みを揃えるということが必要だと思うんです。今回の妙高高原駅周辺整備ビジョンと基本構想でました。我々の交通対策特別委員会のあれはほとんど入っていないわけですよ。あの中には、そこがちょっと私ども不満なんです。入っていたとしても私が提案した0番線はだめだという。なんでだめなのか分からないんだけど、それはあした、あさってやるというのはだめに決まっている。線路もないわけですし。金がかかるといったってそれは何年計画でやれば別にどうってことないんでね。基本構想の中にだめだという話しはない。ビジョンだってだめだというビジョンはないわけです。そういうものをああいうもので出すということは、交通対策特別委員会の意向はほとんど入っていないじゃないかなというふうに思うんで、相対するという会議でなくて、真のはねうまラインをどうするかということ意見を交換させてもらえればなと思うんです。

○委員長（宮澤一照） わかりました。これはまた日程を調整してやらさせていただきたいと思います。それでよろしいですか。ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（宮澤一照） ないようですので、今おっしゃられたことをとりまとめて今後、行政と関わり合いをもって話しをしていきたいと考えますので、よろしくお願いします。御異議なしと認めてほかに皆さんから何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

○委員長（宮澤一照） 時間も差し迫っていますので、それでは以上で交通対策特別委員会を散会します。御苦労さまでした。

散会 午後5時13分